

平成22年度「基礎・基本」定着度調査について

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

基礎的・基本的な内容及びそれらを活用する力について、県内の全公立小・中学校を対象に調査を行い、客観的なデータに基づき定着度の状況を把握することにより、各学校等での指導法改善の取組を支援し、児童生徒の基礎学力の向上を図る。

(2) 調査の重点

昨年度に引き続き、選択式の設問に加え、知識・技能の活用に関する記述式の設問などを一定数出題した上で、昨年度と同様の難易度とし、目標平均通過率を70%に設定した。

(3) 調査の実施日

平成23年1月13日（木）、14日（金）

(4) 対象学年、対象教科

小学校第5学年（国語、社会、算数、理科）

中学校第1学年（国語、社会、数学、理科、英語）

中学校第2学年（国語、社会、数学、理科、英語）

2 結果の概要

- 全14調査中、目標平均通過率を達成したものが5調査、達成と同視できるものが1調査であり、昨年度における下記の傾向を含め、全体的な課題が継続している。
 - ・ 小学校段階の通過率は概ね安定・改善している一方、中学校段階では、明らかに定着が不十分な教科・学年が存在する。
 - ・ 小学校・中学校段階に共通して、基本的な知識・技能については比較的定着がみられるものの、それらを活用し思考・表現する力が身に付いていない。
- なお、本年度の特徴として、明らかに一定の改善のみられた教科と、みられなかった教科の差が顕著であり、特に算数・数学に関しては、指導体制の抜本的な点検を行う必要がある。

3 各教科の平均通過率等

		H22	H21
国 語	小5	70.0	73.3
	中1	73.1	72.4
	中2	67.8	73.7

- 「聞く」「読む」「言語事項」については、すべての学年で概ね定着しているが、中2の「書くこと」については、一部に改善のみられない箇所がある。
- 文章や図表・グラフを使って思考を整理し、自分の考えをまとめ、記述する力の定着を図る必要がある。

		H22	H21
社 会	小5	72.1	69.1
	中1	63.7	63.3
	中2	69.6	58.9

- 基礎的・基本的な知識については、すべての学年で概ね定着しているが、資料から必要な情報を読み取り、考えたことを表現する力の育成が課題である。
- 社会的事象の特色や事象間の関連等について、資料等を基に考えたことを表現する学習の充実を図る必要がある。

		H22	H21
算 数	小5	62.7	66.0
	中1	64.9	69.7
	中2	64.3	63.2

- 全学年を通し、通過率の低い問題の改善が図られておらず、確実に定着するまで繰り返しの指導を徹底する必要がある。
- 式、図、表、グラフ等の読み取りから、自分の考えや解決方法を筋道を立てて説明するなどの数学的な思考力・表現力に関する指導内容の見直しを行う必要がある。

		H22	H21
理 科	小5	70.6	73.6
	中1	65.7	57.0
	中2	59.8	59.5

- 観察・実験などの直接体験を重視し、学習内容と生活の中の事象とを関連付け、実感を伴った理解を図る必要がある。
- 「わかっていること」と「わからないこと」を整理し、筋道を立てて調べ、結論付けるといった思考の過程を重視した、科学的な問題解決力の育成が課題である。

		H22	H21
英 語	小5	-	-
	中1	73.9	70.0
	中2	66.6	62.5

- 「聞くこと」及び「読むこと」の領域において、概要・要点を把握する力は概ね定着している。
- 場面に応じて適切な表現を用いたり、まとまりのある文章を書いたりする力が不足している。音声による表現の練習を行った上で、文字による正確な表現の定着を図る必要がある。

4 調査結果の活用（今後の対応）

今後、本調査の更に詳細な分析を行い、その結果を教職員研修等において集中的に活用することなどにより、県下全体での課題認識の共有と必要な対応の推進に、着実に取り組む。

また、特に算数・数学を中心に、昨年度からの課題に対する改善がみられない事態を踏まえ、本県独自教材「鹿児島ベーシック」（中学校用）の緊急改訂を行い、各学校における学力向上への取組を積極的に支援する。